

西教組ニュース

都教組西多摩支部情宣部発行
Tel 0428-24-0459 Fax 24-6384
http://www.t-net.ne.jp/~seikyoso/
E-mail seikyoso@t-net.ne.jp



西教研 「秋の教研集会」

10月21日(金) PM6:20~PM8:30 秋川中央公民館

分科会 ①国語 ②算数 ③学級づくり ④読書指導 ⑤平和教育 ⑥特別支援教育 ⑦中学校



「校長の人事構想」による強制的・差別的な異動を許さない！

希望が活かされ安心して教育活動ができる人事異動の実現を



毎年、学校長の説明不足や意図的とも見える異動の強制で苦しむ教職員が出ます。私たち自身が人事異動要綱の内容をよく知り、学校長がその役割を果たすようにすることが大切です。都教組西多摩支部は、恣意的・強制的な人事異動をなくし、安心して教育活動に専念できるよう全力でがんばります。

人事異動についての都教委の考え

「校長の人事構想」による人事異動の要綱になって、実態として恣意的・強制的な異動の強要が広がっています。都教組の繰り返しの要求に対して都教委は、「要綱を見直す考えはない」と表明しつつも、

・学校が組織的に地域や保護者の信頼に応えることは大切。

・異動にあたっては教職員個々の意見を聞き、十分な相互理解を図ることは大切。

・恣意的、差別的な人事があってはならない。この点を周知し、指導していく。思想、良心の自由の侵害、年齢による差別、男女差別、セクシュアルハラスメント、パワーハラスメントがあってはならない。

・通勤時間については標準時間（60～90分）に収まるよう異動作業上、努力する。

・保育・介護・病気治療・健康など

の点については今までも配慮している。

・異動を理由に退職を強要してはならない。などと回答しています。

「校長の人事構想」でも、「相互理解」が重要

人事異動は自己申告、中間面接から始まります。「校長の人事構想」による強制的異動をさせないとりくみが決定的に重要です。具体的には、自己申告書、中間面接での本人の希望や意向を校長に十分に伝え、理解させ、地教委に具申させることが重要になっています。また、「校長の人事構想」については、職場でオープンに話す、職員会議などで議題にさせるなど、学校としての共通認識にしていくとりくみが大切になっています。

学校長の「人事構想」については、

教職員との「相互理解」が基本です。納得がいくまで説明を求めましょう。「異動する」「しない」についても、「相互理解が大切」です。学校長の人事構想と本人の希望がくいちがう場合は、納得がいくように説明を求めましょう。

また、「私の知り合いの校長が〇〇市にいる。話をしてあなたをその学校へ行かせてあげるから異動なさい」などと校長に言われそれを信じて異動を希望したら、全く違う地域に内示された、などの事例が後を絶ちません。こうした校長の権限外の発言にだまされてはいけません。校長に異動地区を決める権限などありませんので、十分注意しましょう。

「本人の事情」は自由意見欄に自由に記入を

自己申告書には、極端に希望を特定するような記述以外は自由に記入

することができます。また、添付資料をつけることもできます。保育や介護、疾病など事情がある場合は細かく記入し、ていねいに具申するよう学校長に確認しましょう。

とりわけ保育、介護、病気治療など、異動に際しての本人個々の事情は、安心して仕事を続けるための最も土台となる勤務条件です。都教委も「配慮する」と明言しています。校長に本人事情をきちんと伝え、地教委に上げさせる取り組みが重要です。特にピンクカードの取り組みを重視してすすめましょう。

新しい異動の制度について

「主幹・主任教諭の公募」「特別支援教育に関わる異校種期限付異動」

という2つの制度が今年度からはじまります。詳しいことは、学校長に確かめましょう。

組合にピンクカードの提出を

「人事異動特集」新聞都教組の10月臨時号に詳しい異動の注意点が掲載されます。異動を希望する仲間が職場にいたら、それを参考にして相談しましょう。また、組合にピンクカードを提出することで、恣意的・強制的な異動を防ぐことも多くあります。異動する人は、必ず都教組の分会を通じてカードを提出して下さい。問い合わせは都教組西多摩支部（0428-24-0459）にお願いします。



ゆとろぎ大ホール満員で大成功 映画「アンダンテ ～稲の施律～」 上映会

「ポコ・ア・ポコ」「飛行船」など複数の不登校の親の会を含む上映実行委員会が主催する同上映会は、7つの市の後援を受け、750人の参加で会場がいっぱいになり、大成功しました。終了後、実行委員の一人は「たくさんの人に見てもらえてうれしい。一人ぼっちで悩む人がいなくなるよう、このつながりを広げていきたい。」と話していました。